

“マイ・ヴィンテージ”になっていく 物語を作るバッグたち

長く愛される名作バッグたるゆえんは、形や素材など、その姿だけに基づくものではありません。持ち主とともに織られた物語にも大きな魅力が備わっています。服飾史家・中野香織さんの解説とともに、時代のミューズとその相棒であったバッグが生み出したストーリーを綴ります。

Hermès

陶酔を覚える、有名な物語。
“その人の名”がモデル名に

モナコ公妃グレース・ケリーの名を冠した「ケリー」。そして、当時のエルメス会長がジューン・パーキンのために製作した取柄のあるバッグ「パーキン」——。時の女性たちの人生の節目を彩ったバッグは、いまなお輝きを失っていない。



アメリカの大家女からモナコ公妃へ転身したグレース・ケリー。妊娠中、記者たちに囲まれ、とっさにバッグでおなかを守った姿は有名。

子育て中だったジューン・パーキンも「エルメス」のバッグの名に。無運作に物を詰め込む彼女のためのバッグは後の名作となりました。

時代を彩るミューズ。
その存在感を印象づけた
バッグの役割

文・中野香織（服飾史家）

ギリシア神話のなかの神々は、アトリビュート（持物）によって識別できる。天空神ゼウスは雷、最高位の女神ヘラは孔雀やザクロ、芸術の神アポロンは月桂樹、愛と美の女神アフロデイトは薔薇、海の神ポセイドンは三叉の矛というように。時代が移り、作家によって神々の描かれ方が変わっても、「ああ、孔雀のモチーフがあるからこれはヘラね」とわかるのだ。神々とアトリビュートは、お互いの本質や魅力を引き立て合いながら、神の役割をより明確に世界に示すという知的な関係を取り結んでいる。

女性とバッグも似たような関係をもつことがある。エリザベス女王はハンドバッグの置き方ひとつで側近への意思表示までやってのけているし、サッチャー元英国首相は一瞬、席を外す時も愛用のハンドバッグを自分の代わりに置くことで存在感を示し続けた。ハンドバッグが持ち主の意志や存在そのものの象徴となるという意味で、まきれもないアトリビュートになっている。

歴代のスタイルアイコンにも、そのようなバッグがある。しかも、それぞれのバッグに物語がある。

たとえば、グレース・ケリーが持つ「エルメス」の、サック・ア・クロア。1956年、モナコ公妃はバラッチャを避けるために妊娠中の腹部をとっさにこのバッグで隠した。バッグはたちまち有



Chanel

機能性から生まれたデザインは
いまなお憧れの代名詞

チェーンを肩から掛けても、二重にして手持ちしてもよしという「シャネル」の名作バッグ「2.55」は、女性の自由の幅を広げる画期的なバッグだった。ジャンヌ・モローをはじめフランス女性の「スタイル」は、後に世界中の女性の憧れに。

1961年、ローマ空港でのフランスの女優ジャンヌ・モロー。片足を上げた茶目っ気ある姿も「シャネル」"2.55"とともに様になっています。



さまざまなシーンや懐いに「ディオール」の「レディ ディオール」を組み合わせたダイアナ妃。真っ白なスーツに黒のバッグが際立ちます。



1950～60年代「シャネル」のモデルとして活躍したマリー-エレーヌ・アルノー。チェーンバッグとともに画期的なツイードスーツを着て。



Dior

人前に立つことの多い
妃たちの携り所となったバッグ

「レディ ディオール」の名の由来となったダイアナ妃は、昼の公務にも夜のフォーマルにもこのバッグを色違いで愛用。フェミニンで写真映え抜群のバッグは、ダイアナ妃をはじめモナコ公国のシャルレーヌ妃とプリンセスたちを魅了した。

モナコのシャルレーヌ妃も「レディ ディオール」の愛用者。パールラインのスーツに、メッシュデザインの珍しいモデルを合わせています。

名になり、「エルメス」はこのバッグを、
「グリー」バッグと改称する。
また、ダイアナ妃が持つ「レディ ディ
オール」。1995年、パリを訪れたダ
イアナ妃に、当時フランスのファースト
レディだったベルナデット・シラクが
「ディオール」の新作バッグを贈った。
ダイアナ妃はこれを気に入り、全色を注
文し、どこへ行くにも携える。ダイアナ
妃と不可分となったこのバッグは、翌年
「レディ ディオール」と命名された。
ジャクリーン・ケネディ・オナシスに
は、「グッチ」の「ホーボー」がある。
オリジナルは1958年にデザインされ
たもので、ジャクリーヌが60年代に入っ
て愛用したことで「ジャッキー」と呼ば
れている。ファーストレディから海運王
夫人へと激動の変身を遂げた60年代、70
年代を通して彼女はこれを愛用し、80
年代に入っても持ち続けている。そんなジ
ヤッキーに敬意を表し、「グッチ」は今
年の秋冬、「ジャッキー1961」とし
て再解釈したコレクションを出す。
与えられた人生を隠せず生きる女性に
安心感を与え、どんな時ともともにあり続
けることで女性に自信を与える。結果と
して、バッグはアトリビュートにまで格
上げされる。そんなバッグはタイムレス
な価値をもち、ヴィンテージとして別格
の存在となり、デザイナーにとっての尽
きぬインスピレーションの源となり続け
ているのである。
現代を生きるミューズたちも、そのよ
うな関係をバッグと取り結ぼうとしてい
る。アマル・クルーニーが常時携帯する
「フェンディ」の遊び心ある「ピーカブ
ー」、ベルギーのマチルド王妃が持つ革

フランス大統領夫人ブリジット・マククロンの「ルイ・ヴィトン」好きは有名。さりげない存在感を放つバッグ“カブシーズ”をいくつも所有。



Louis Vuitton

旅行鞆に端を発するブランドの信頼をもたらす“隠れ名品”

「ルイ・ヴィトン」のイニシャルがこれ見よがしではなく、デザインとしてセンスよく組み込まれている“カブシーズ”。バッグとしての堅牢さとエレガンスを兼ね備え、ブランドの存在感を声高に主張させたくない公人にも好まれている。

ヨルダンのラーニア妃は、公務で美術館を訪れた際“カブシーズ”をチョイス。大きめのサイズも淡いベージュなら清楚な雰囲気です。

Gucci

自由を手にした女性をいっそう輝かせる存在に

体に馴染む、曲線が美しい柔らかなホーボーバッグは、ビジネスにも小旅行にも活躍。女性の解放が加速度的に進んだ激動の時代に、汎用性があり“スクエアではない”「グッチ」のバッグは行動領域を広げた女性たちに人気を博した。



元ファーストレディのジャクリーン・ケネディは、後に編集者に。ワーキングウーマンとして働く彼女の傍らには、名作バッグ“ジャッキー”が。



1972年、カトリヌ・ドヌーヴのオフショット。ケープ形のコートから見え隠れするのは「グッチ」のホーボー。軽快さを助長しています。



なかのかわり研究・執筆・講演活動、および企業の顧問・アドバイザーを務める。昭和女子大学客員教授、ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特別教授を歴任。『インベーター』で競馬アドバイザーを務める。日本企業出版社はか著書多数。婦人画報公式サイトでも連載中。

2000年代初頭にはワンシーズンのみ魔性の魅力を発揮する。イット・バッグが眩く見えた。しかし、地球環境の持続性のなかに私たちが存在し得るというわきまえをもつて生きるべきこれからの時代には、将来にわたり愛着をもって関係を育て上げていける。マイ・ヴィンテージ・バッグを選びたい。バッグを見ればあなたの存在が浮かび上がるというほど寄り添い合うことができれば、これほど幸福なバッグとの付き合い方もないではないか。



Delvaux

どんな場でも臆さず合わせられる
“エレガンス”の代名詞

ベルギー王国建国とほぼ同時期の1829年創業の「デルヴォー」は、革新的でありながら正統派の風格を漂わせるベルギー王室御用達。なかでも「ブリヨン」は、装い全体を格上げし、格式の高い場も堂々たる気品を添えてくれる。

旅行中も手元に荷物を置けるよう考案されたハンドバッグ「ブリヨン」。ジャクリーン・ケネディ起用の1961年の広告も旅を感じさせるものに。



1883年にベルギー王室御用達になった「デルヴォー」。小さなサイズの「ブリヨン」を合わせた、ベルギー・マチルド王妃の公務スタイル。



ハットにマント、そして小籠に愛犬を抱えたセレブ然としたオリビア・バレルモ。隙のない美しい仕上げのアクセントに、大きなバッグが。

“ビーカブー”愛用者として有名な、弁護士として活躍するアマル・クルーニー。書類などもたっぷり入る大きめサイズをスーツスタイルで。

Fendi

自立した女性にこそ似合う
ウィットに富むバッグ

真面目な顔をしたバッグの口を開けると、ユーモラスな内側がのぞくというギャップが魅力の「フェンディ」“ビーカブー”。“いないいないばあ”、という意味の名前もユーモラスで、とりわけ“できる”女性を持つと余裕ある貫禄まで感じさせる。

